

以上で1分間以上の持続を認めたものは胸骨圧迫8例中3例(37.5%)、人工呼吸6例中3例(50%)であった(表1)。両群間で心拍数の回復に有意差は認めなかった(p=0.529)。

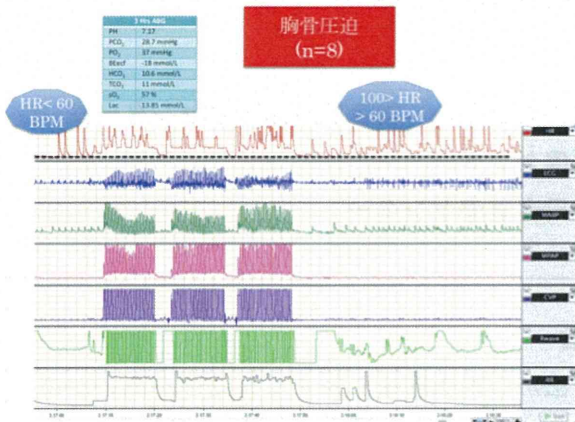


図2 胸骨圧迫データ

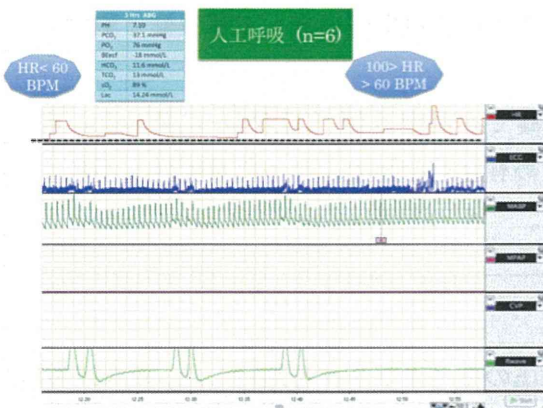


図3 人工呼吸データ

表1 胸骨圧迫と人工呼吸の比較

	心拍数回復		合計	%
	なし	あり		
胸骨圧迫	5	3	8	37.5
人工呼吸	3	3	6	50

Fisher's Exact Test= 0.529

#### D. 考察

心拍数の回復は、胸骨圧迫を行った群で37.5%、人工呼吸を行った群で50%と、人工呼吸を行った群で回復の頻度は高かったが、有意差は認めな

かった。今回は対象数が少なかったため有意差を認めなかった可能性も考えられた。

#### E. 結論

乳児の心肺蘇生においては、人工呼吸の有用性が示唆されるが、今回の動物モデルにおいては人工呼吸と胸骨圧迫では心拍数回復に対しては有意差を認めなかった。

今回の検討では対象数が少なかったこともあり、乳児の蘇生法における人工呼吸と胸骨圧迫の有用性については更なる検討が必要と思われた。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

特になし

##### 2. 学会発表

特になし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

特になし

##### 2. 実用新案登録

特になし

##### 3. その他

特になし

